【理念】

主に難治・慢性疾患の子どもを対象とした医療・保健・療育・福祉サービスの県の中核機関として、安心・信頼・満足の得られる医療・ケアの包括的なサービス提供を行います。

【基本方針】

- 高度な専門知識と技術の向上に努め、良質で安全な科学的根拠に基づいた医療を、十分な説明と納得の上で提供します。
- 地域の医療、保健、療育、福祉、教育機関との機能分担・連携を図ります。
- 小児の医療、保健、療育、福祉にたずさわる専門家の育成、学生教育への協力および臨床研究を通じて、県下の小児保健医療の発展と向上に貢献します。
- 県立病院の使命としての政策医療を推進します。

診療科等のご案内

◆ 診療科目

小児科（総合内科・神経内科・アレルギー科）
こころの診療科（精神科）、整形外科、小児外科、眼科
耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科

◆ 外来

予防接種、肥満、発達障害、ダウン症
臨床遺伝カウンセリング

- 内科系：頭痛、心臓内科、腎臓内科、内分泌・代謝科、血液・リウマチ科
- 外科系：泌尿器科、脳神経外科、形成外科

◆ 病床数　100 床

ご利用案内

◆ 外来診療

- 小児科（総合内科）を除き、原則として予約制です。
- 診 療 時 間　　午前 ９時００分～午後 ５時００分
- 予約受付時間　　午前 ８時３０分～午後 ５時００分
- 休　診　日　　土・日・祝日・年末年始

◆ 初診時の注意点

- ０～１８才未満の方を対象としています。

◆ 初診時に持参いただくもの

- 保険証（国保･協会健保･共済等）：受診時毎月提示してください。
- 母子健康手帳（乳幼児の場合・こころの診療科受診の場合）
- 医療券（公費負担をご利用の場合）

★予約直通電話：０７７－５８２－８４２５★

小児科（総合内科）は予約なしで受診していただけます。
診療受付は午前１１時３０分（月～金）までです。

地域医療連携室ご利用案内

- 受 付 時 間　　月曜日～金曜日
  午前９時００分～午後４時３０分
  （土、日、祝日、年末年始は除く）
- 直 通 電 話　　077-582-6222
- FAX 番 号　　077-582-6276

チャム&リリ

～ 病 院 広 報 ～
滋賀県立小児保健医療センター
（平成２８年３月発行 Vol.22）

今回は、当院の「整形外科」をテーマに特集記事を組みました。
整形外科に関わる様々な職種からの紹介を掲載しています。

「整形外科」について

「整形外科」という用語は、1741 年フランスのニコラ・アンドリ医師が作り出したとされています。ギリシャ語の「Orthos」（まっすぐ、正しい）と「Paedion」（子供）という２つの言葉を合わせた造語です。この言葉の通り、「整形外科」では、子供たちの骨を正しい方向に整えるための治療を行っています。ご家族と一緒に子供たちの病状を見守りながら、時にはギプスや装具で変形を予防したり、矯正します。さらに、変形が強い場合には、手術を行うこともあります。

脳性麻痺の子供たちには、一人ひとりに合った装具を作り、側弯症や四肢の変形の進行を予防します。それでも変形が進む場合には、筋解離手術で筋力のバランスを整えたり、骨切り手術で変形自体を矯正します。先天性内反足の子供たちには、生後すぐからギプスでの矯正を開始し、ほとんどの症例が制限なく運動のできる足に治ります。しかし、一部の症例では残った変形に対して手術が必要な場合もあります。臼蓋形成不全やペルテス病といった股関節の病気では、一見何の不自由もないように見えても、将来問題が起こらないように手術をお勧めする場合があります。脚の長さが違ったり、身長が低い子供たちには、脚延長手術を行っています。

どの病気の治療についても重要なのは、子供たちを正しい方向へと成長させてあげるために正しいタイミングで少し手助けをしてあげるということです。これからも「整形外科」では、子供たちの未来のために、小さな手助けを続けていきます。

（整形外科　吹上　謙一）

麻酔について

当センターの麻酔科が管理する症例のうち、整形外科患者さんは毎年 60%以上をしめています。そしてそのほとんどを全身麻酔により管理しています。子どもさんは痛みがなくても恐怖心でじっと我慢できるものではありません。恐怖心や痛みをとるために全身麻酔が必要となります。術後の痛みを和らげるため、硬膜外麻酔や局所麻酔等を併用することがあります。

手術を行う日が決まったら、手術の前日までに麻酔科医師が麻酔の説明と診察を行います。

手術前は飲んだり食べたりする時間が決められています。お腹の中に食べたものが残っていますと手術中に嘔吐して窒息したり、誤嚥して肺炎を起こす危険があるからです。患者さんによっては手術前に不安を和らげるためのお薬を飲んでもらうことがあります。

DVD を見てもらいながら麻酔の導入をしています。

手術室に入ったら、小児では麻酔ガスで眠ってもらう場合は多いです。その場合は DVD を見たり、好きな音楽を聴きながら眠くなるガスを吸ってもらいます。このガスを吸うと１～２分程で眠ってしまいます。

手術の麻酔管理中です。

その後点滴を注射しますので、痛みや怖さを感じることはありません。

手術が終わったら、レントゲンの撮影やギプスを巻くなどの処置を行います。麻酔を覚ます前に痛み止めの処置をしておきます。

その後麻酔を覚まし、人工呼吸の管を抜去してから病室へ戻ります。

戻った直後は、眠っていたり、泣いたり、ぐずったり、反応は様々です。

もし気持ちが悪くなって嘔吐するようでしたら、麻酔の影響が残っていますので、しばらく様子を見て退室します。

（麻酔科　和田　佳子）

体幹ギプスをまいた後、麻酔からさましています。

手術室看護について

子どもが手術を受けるということは、子どものみならず、家族にとっても大変不安なことです。「子どもと家族が安心して手術を受けられる」また「手術後できる限り安楽にすごせる」ような関わりを持つことが手術室看護として重要な役割です。

手術を受ける子どもたちに、「手術室ってこんなところ」「こんなことをして手術が始まってくんだよ」ということを写真で説明し、実際に麻酔に使用するマスクなどを使ってイメージしてもらいます。また子どもたちにカラフルな手術衣を選んでもらったり好みのＤＶＤを用意するなどして、手術室への恐怖心が和らいで、自然に入室することができるように工夫をしています。整形外科の手術では術後ギプスになることがあります。ギプスは日常生活や活動に制限がかかります。手術室では、「キワニスドール」（右写真）をお渡しします。真っ白な人形に顔や服など自由に描いてもらい名前をつけ、子どもと一緒に手術室へ来て同じようにギプスを巻くことで、まるで自らの分身のような存在になります。そうすることで手術や手術後のギプスへの受け入れや、闘病意欲の向上につながることを期待しています。

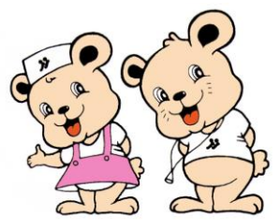
子どもたちにとって手術が「いやなこと」「怖いこと」になるのではなく、頑張り、達成感を持って笑顔で退院していくことを目指しています。

（看護部　佐伯　美奈）

リハビリテーションについて

整形外科手術において、安定した術後成績を得るためには適切なリハビリテーションが欠かせません。当センターでは手術を受けた子どもたちがスムーズに社会復帰できるよう術後患児・者のリハビリテーションに力を入れています。特に理学療法では、疾患特有の運動発達に考慮した日常生活動作やスポーツなどを治療に取り入れています。また、軟骨無形成症などに伴う低身長のため四肢の骨延長術を行う子ども達に対しては、腰椎の変形や関節の緩みなどの特徴的な運動障害の改善を目的にしたプログラムを立て、手術前後の指導を行っています。

近年周産期医療の発達に伴って超未熟児などハイリスク児の救命率が向上し、脳性麻痺と診断される小児も増加しています。重度の脳性麻痺児では全身の筋肉の緊張のコントロールに難渋することが多く、呼吸障害や側弯症などの背柱変形、股関節脱臼などの二次障害を引き起こします。整形外科ではボツリヌス療法やバクロフェン髄腔内持続注入療法といった、筋緊張をコントロールするための先進治療を積極的に取り入れており、リハビリテーションでは筋緊張をしっかりコントロールしながら運動学習を積極的に行なえるよう工夫を重ねています。

難治慢性疾患をもつ子ども達の潜在能力を最大限に引き出し、豊かな社会生活を送っていただけるためにリハビリテーションの果たす役割は非常に大きいと考えます。入院中の子ども達は、学校に通いながら毎日一生懸命リハビリテーションに励んでいます。特に、太いワイヤーを何本も骨に刺して上肢や下肢に骨組みを作り少しずつ骨を伸ばしていく骨延長術を行う場合は長期間の入院を要し、精神的にも体力的にも大変です。治療のため何ヶ月も家族や友達と離ればなれになり、入院といった特殊な環境のなかで隣接する守山養護学校に通い、痛みや疲労と戦いながら朝から晩まで一生懸命プログラムをこなしています。どうか今後とも、皆様の心暖かな応援をよろしくお願いいたします。

（リハビリテーション科　平島　淑子）